

平成30年6月25日現在

機関番号：18001

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26370321

研究課題名(和文) ピーター・マシセンと20世紀アメリカ文学

研究課題名(英文) Peter Matthiessen and 20th-century American Literature

研究代表者

山城 新 (YAMASHIRO, Shin)

琉球大学・法文学部・教授

研究者番号：80363654

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究ではピーター・マシセンの作品に通底するのは「環境」と「正義」というテーマであると論じた。特にテキサス大学オースティン校のHarry Ransom Centerを訪問し、これまでマシセン研究であまり分析されることのなかったマシセンの原稿や手記を分析資料を含めてたことで、おマシセン研究の議論を刷新した。本研究の締めくくりとして、これまでの研究成果を海外出版用の原稿としてまとめ、英文校閲(約200ページ)を済ませると共に、海外学術出版社と出版交渉を始めた。

研究成果の概要(英文)：Reading most of Matthiessen's work from his first nonfiction book up to his last work of fiction, *In Paradise* (2014), I study his work from an environmental perspective, arguing that most of Matthiessen's work is environmental writing not just because his narratives often involve endangered wild species in remote places, but also because his projects always deal with issues of justice in both human and natural contexts. Matthiessen's books can be labeled as "environmental writing" but their topics and themes sometimes exceed the conventional category of environmental literature. My book also looks at his unpublished manuscript and letters in hopes to show some of the issues that haven't been studied. I concluded that, for Matthiessen, environmental issues are the conflicts that emerge from economic, social, ecological, and cultural values. My manuscript is now proof-read, and I am ready for submitting it to publishers.

研究分野：アメリカ文学

キーワード：環境批評 ピーター・マシセン アメリカ文学

## 1. 研究開始当初の背景

ピーター・マシセン(Peter Matthiessen)は、20世紀アメリカ文学を代表する作家の一人であるにもかかわらず、彼の全作品を包括的に論じた研究はまだ発表されておらず、未だ個別的作品論に留まっているのが現状であった。本研究ではアメリカ現代作家を代表する作家としてピーター・マシセンを位置づけ、彼の全作品を包括的に分析することで、マシセン文学を作家論として提示するだけでなく、彼の作品分析をとおして見えてくるアメリカ20世紀アメリカの文化的・文学史的特徴やその課題を議論することが主題であった。

マシセン文学が20世紀に注目を浴びるようになったのは、*Wildlife in America* (1959)、*At Play in the Fields of the Lord* (1965)、*The Snow Leopard* (1978)、そして*The Watson Trilogy* (1990-1999) という作品群であった。それらの作品群をとおして、マシセンの作品はネイチャーライティング、社会派小説、ポストモダン小説といった様々なジャンルの中で議論されることになった。結果としてフィクション/ノンフィクション、19世紀的リアリズム/20世紀的ポストモダニズム議論の間で個別に評価されることはあっても、マシセン文学全体の評価としてそれらを統合的に評価されることはなかった。本研究はそのようなジャンル横断的作家であるマシセン文学に包括的視点を導入するとともに、20世紀アメリカ文化・文学研究を総括的に考えるための一つのアプローチを導入しようと試みた。

## 2. 研究の目的

(1) 21世紀を迎え、20世紀アメリカ文学を総括する試みが様々な実践される中、マシセン文学をとおして20世紀アメリカ文学の状況について、一つのアプローチを提示することが第一の目的である。これまで本研究代表者が蓄積してきたマシセン研究の実績を最近の研究動向を踏まえて改めて総括するとともに、新たな資料分析を加えることで、マシセン研究を刷新することを目指す。

(2) マシセン作品の網羅的かつ具体的分析をとおして、20世紀的アメリカ文学的状況とその時代思潮との関連性を新歴史主義的批評論的展望から精査する。又、テキサス大学オースティン校のHarry Ransom Research Centerに所蔵されているが、これまで彼の著作原稿を網羅的に分析した研究は発表されていない。更に彼が他の作家や編集者ややりとりした書簡の内容も彼の文学論の中で十分に考慮されたことは無いと思われる。本研究では、まだ未整理のマシセンにまつわる資料を分析しながら、マシセン論をとおして垣間見ることのできる20世紀アメリカ文学論も議論することが、第二の目的である。

## 3. 研究の方法

平成26年度は2003年から2014年までに出版されたピーター・マシセンの作品や関連資料を調査、収集し、資料を解読した。新たな本科研費の採択が知られる直前にピーター・マシセンが死去し(享年86歳)、研究計画を大幅に変更せざるを得なかった。予定されていたインタビューは遂行できなくなったため、初年度の研究は資料解題に集中した。次年度はテキサス大学オースティン校のHarry Ransom Research Centerを訪問し、これまでマシセン研究であまり分析されることのなかったマシセンの原稿や手記を閲覧しつつ、デジタルカメラで資料を複写した。複写した資料を解読することが2年目の研究の主な取り組みとなった。2016年は当初の計画では最終年度となるはずであったが、研究代表者が大学改組の作業部会の委員となり、また、専攻主任としての組織管理業務が多忙を極めることになったため、1年間研究を延長し、2017年が最終年度となった。最終年度にはこれまでの調査資料を解読しつつ、これまでの研究成果をまとめ、出版用原稿として英文校閲まで完了した。

## 4. 研究成果

ピーター・マシセン(Peter Matthiessen)は、20世紀アメリカ文学を代表する作家の一人であるにもかかわらず、彼の全作品を包括的に論じた研究はまだ発表されておらず、未だ個別的作品論に留まっているのが現状である。最近の新たな研究展開としては、2014年に*The New Yorker*誌に掲載されたJoshua Rothmanによる記事において言及されたとおり、彼のC.I.Aの諜報活動への関わりが、彼の作家としてのキャリアと無縁ではなかったことである。しかしながら、その点については既に初期のマシセン研究でも指摘されていたことであり、必ずしも新資料を伴ったものではなく、また具体的に彼の作品分析が刷新されたわけでもない。また、彼の晩年の*Shadow Country*(2008年全米図書賞(小説)受賞)や*In Paradise*(2014年)などの小説作品を分析した論文もまだ発表されていない。本研究では、これまで活用されていない関連資料を対象にすることで、マシセンの作品を包括的かつ新たな視点で分析することを目指した。その点では、(現在出版社と交渉中の為、新たな資料については具体的に言及しないが)彼の初期小説に関する資料群では、彼の執筆原稿を細かく見ていくことで、これまでの作品評価とは違う見方を提示することができた。また、マシセンが20世紀の代表的知識人たちとどのような交流を持っていたのかを資料の中の手紙やメモ等の私信を分析することで把握することができた。20世紀文壇とマシセンの関係はこれまで指摘されることはなく、また彼の友好関係をとおして改めてマシセン作品の中の文学的

価値を評価することができた。21世紀を迎え、20世紀アメリカ社会の総括の研究まだ始まったばかりであり、本研究ではマシセン作品の具体的分析をとおして明らかにするとともに、同時代の作家や文学的テーマや表現の傾向と関連付けて分析し、これまでのマシセン研究に新たな知見を導入することを目指した。

具体的な作品論としては、まず、マシセンの先行研究としてノンフィクションとフィクションを別個の独立したジャンルとして議論するのではなく、どちらもマシセンにとっては「環境」や「正義」のテーマを扱うために共通の役割を果たしていることを示した。

次にマシセンの作品をアメリカ社会の変遷と関連付けて解説した。具体的には、1960年から1990年までは「自然」や「マイノリティ」などの社会的優位性を持たない存在に関わる「不公正」を巡る問題性を扱うことが多く、その後の晩年までは全世界や人類をめぐる普遍的「正義」の問題が主要なテーマになっていくことを個別の作品分析をとおして指摘した。

新たなマシセン資料としては、テキサス大学オースティン校のHarry Ransom Centerに所蔵されているマシセン資料群を全体的に調査した。その中でこれまで分析対象として扱われたことの無かった第一次資料を確認し、これまでのマシセン作品分析に新たなアプローチを導入することが可能になった。(詳細は現在出版社との出版交渉中の為、ここでは説明しない。)

関連する研究成果として、本研究では、19世紀ならびに20世紀のアメリカ文学と環境研究について国際会議での招待発表(香港大学)と国内学会(アメリカ研究会)での招待発表をおこなった。香港大学では、環境文学批評的試みとしてサーフィンナラティブを20世紀の新たな海の文学の可能性として議論した。マシセンの*Far Tortuga*という小説分析が援用された論考であるが、特に海上での人間活動が言語化される際に海環境の諸要素が影響を及ぼして修辭的な特徴をサーフィンを描く映画や文学作品の中に分析した。*Far Tortuga*の中の海の風景の描写はこれまで現象学的に分析されることが多かったが、マシセンの作品の海の風景には海環境の持つ物質性が重要であることを指摘したことがこれまでの研究に比べて新しい点である。更に本稿ではサーフィンナラティブの中の海環境の物質性が反映された言語表現について分析した。本稿の意義として、海環境の物質性を明らかにした上で、サーフィンナラティブという新しいジャンルへの新しいアプローチを提示した。

マシセンの博物学的な活動は彼の環境文学的実践の重要な部分であるが、その点についてはThe Panama-Pacific International Exposition, San Francisco, 1915(アティ-

ナプレス、2017年10月出版)の別冊解説として「パナマ・太平洋万国博覧会(Panama-Pacific International Exposition, 1915)とその意義について」を執筆した。博物学的実践は、20世紀に万博にも同様に影響を及ぼしていく。その点について、特に、アメリカンモダニズムを形成する経済的、文化的背景を示す第一次資料としての位置づけとして、パナマ太平洋万国博覧会の公式記録と付帯資料を当時の状況を踏まえて概説した。パナマ・太平洋万国博覧会(Panama-Pacific International Exposition)は、1906年のサンフランシスコ大地震からの復興と、パナマ運河の開通ならびにスペイン人探検家バルボア(Vasco Núñez de Balboa)の太平洋発見400年周年を記念して、1915年2月20日から12月4日までアメリカ合衆国カリフォルニア州サンフランシスコで開催された。635エーカー(約77万坪)に及ぶ敷地内にドーム型屋根の古典的ヨーロッパ様式建築物が立ち並び、ゾーン(zone)と呼ばれるテーマ別の区画において文化・歴史・商工業・芸術・建築・特産物など様々な観点から参加国・地域を表現する展示物が陳列された。マシセン文学はパナマ・太平洋万博で示されたアメリカの文化的覇権主義と無関係ではなく、海の文学を考える上でもアメリカ拡張主義とも関連している。

本科研で進めてきた20世紀アメリカ文学・文化の研究とマシセンの作品分析の延長として、アメリカ研究会でアメリカ博物学と覇権主義との関連性について招待発表を行った。その発表では太平洋における捕鯨基地確保と通商発展を国家プロジェクトとして、チャールズ・ウィルクス(Charles Wilkes)率いるアメリカ合衆国探検遠征(The United States Exploring Expedition、あるいはEx. Ex.)(1838-42)について論文を発表した。本探検は当時最大規模の探検隊を組織し、太平洋地域における人類学的、地理的、生物学的、植物学的、天文学的、海洋学的調査を行ったもので、6隻編成(*Vincennes*, *Peacock*, *Porpoise*, *Relief*, *Sea Gull*, *Flying Fish*)により、総勢346人の船員を動員した。(その中には軍人以外の9人の科学者と数人の画家も含まれていた。)特にクック以来その存在のみしか知られていなかったフィジー諸島の詳細な探査記録や南極大陸の発見は世界的にも顕著な功績として知られており、太平洋を中心におよそ260に及ぶ島々を巡り集積した膨大な記録も、その後のアメリカ合衆国の学術的・文化的発展において大きな役割を果たすことになった。この発表をとおして、ウィルクスのアメリカ合衆国探検遠征が、その後のアメリカの太平洋における覇権主義の展開(軍事・商業・植民地(領土拡大)の基盤を作ったと主張した。グローバルな枠組みの中でアメリカの拡張主義を検討することは、21世紀的グローバリズムの展開を考える時に重要であり、本科研のマシセン文学

論につながる 20 世紀前半のアメリカ文学・文化研究の諸相にもつながる議論である。

また、関連する研究発表として、同年 11 月には琉球大学で開催された RETI (Reseaux d' Excellence des Territoires Insulantes) (島嶼大学間ネットワーク) 主催の国際会議におけるパネル (Mobility and Stability in Forming Island Communities: Multidisciplinary Perspectives) において研究発表 "The Shift between the Oceanic and the Terrestrial: An Alternative Perspective on Islands" を行った。これまでの調査と分析を基にして、沖縄・アメリカを離れて島嶼空間を考えるアプローチとして「海」と「陸」を概念的に説明した。

更に、本研究の締めくくりとして、これまでの研究成果を海外出版用の原稿としてまとめ、英文校閲 (約 200 ページ) を済ませると共に、海外学術出版局と出版交渉を始めた。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 3 件)

Yamashiro, Shin. The Shift between the Oceanic and the Terrestrial: An Alternative Perspective on Islands. RETI: November 17, 2017. University of the Ryukyus, Okinawa, Japan.

【招待発表】 山城 新 : 日本アメリカ学会年次大会 (部会 B 拡張主義と環境) 平成 28 年 6 月 5 日「アメリカ拡張主義とアメリカ合衆国探検遠征 (1838-1842)」

【招待発表】 Yamashiro, Shin. "Contextualizing Asian Ecocinema: Past and Future." May 27-28, 2016, University of Hong Kong.

〔図書〕(計 2 件)

山城新 The Panama-Pacific International Exposition--San Francisco, 1915. Part 1: 『公式記録』 東京:アティーナ・プレス、2016 年 全 5 巻

山城新 The Panama-Pacific International Exposition--San Francisco, 1915. Part 2: 『公式記録』 東京:アティーナ・プレス、2017 年 全 2 巻

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

取得状況 (計 0 件)

〔その他〕

特記事項無し

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

山城 新 (YAMASHIRO, Shin.)

琉球大学・法文学部・教授

研究者番号: 80363654